

第4回（仮称）自転車のまち推進計画策定懇談会 議事録（概要版）

日 時：平成22年9月30日（木）14:00～

場 所：栃木県総合文化センター 3階特別会議室

出席者：別紙 委員会名簿参照

開会

古倉会長挨拶

- ・ 今年の6月に全国で放置自転車の調査が実施された。放置自転車の台数は全国で減少している。しかし、駐輪場に駐輪されている自転車も減少しており、これは自転車で中心市街地へ来訪する人も減少していることを示している。環境にやさしい交通手段を利用してくれる人が減少していることであり、これからは自転車を使って公共交通を利用、中心市街地に来訪する人を大事にするということも考えていかなければいけない。
- ・ このような、自転車施策の曲がり角であるとも言える時期に、本計画の策定に向けた取組も大詰めを迎えている。短い期間の中で、よいものができてきたと個人的には考えており、本日議論して頂きたい。

（1）「（仮称）自転車のまち推進計画」の素案について

古倉会長

- ・ 「チャレンジ目標」という目標設定は全国でも初めての試みではないか。また、内容もハードに偏らず全体にバランスの取れた内容となっている。

渡辺委員

- ・ 79ページの「鉄道駅周辺への駐輪場整備」の都心部の駅で、市街地に近接した東武宇都宮駅を外している理由を伺いたい。

事務局

- ・ 現況調査の結果、東武宇都宮駅周辺を含めて中心市街地の駐輪場は、収容台数は確保されているが放置自転車がが多く、既存の駐輪場が十分利用されていないという結果が出た。そのため、東武宇都宮駅周辺については、「鉄道駅周辺への駐輪場整備」ではなく、中心市街地への利用しやすい「短時間駐輪スポットの整備」の対象としている。

渡辺委員

- ・ 裏付けるデータ等はあるのか。

事務局

- ・ 24ページ、26ページに駐輪場の利用状況をまとめている。東武宇都宮駅周辺を含めた中心市街

地は、駐輪台数が収容台数を超えているが、駐輪場には駐輪しない放置自転車が多い。これは駅周辺の駐輪場の拡充というよりも、商店街などの目的地に近く、利便性が高い場所に駐輪場スポットを整備することで改善につながるのではないかと必要と考えている。

船木委員

- ・ 72ページの33番の路線ではバスの運行本数が176本/日あり、特に通勤時にはバスの乗降も多く、自転車で混雑する。鶴田駅前や南宇都宮駅前通り付近などもそうである。前回の懇談会の資料では、バス停付近の処理方法について、国等の社会実験の結果を参考にしながら整備していくと言う記述があった。今回無くなっているのはなぜか。

事務局

- ・ 今回、計画素案には記載されていないが、バス停部の処理に対する基本的な考え方はこれまでの資料のとおりである。第3回懇談会と同様に参考資料として記載するようにしたい。

出井委員

- ・ 宇都宮市における標準整備パターンの設定方法について、どのような考え方で進めていくのか教えて頂きたい。また、現在の素案の書き振りでは自転車の走行空間の優先度が自動車に対し、低いように感じられる。前回懇談会で提案した自転車優先道路といった表現が出てこないといった点もある。もう少し自動車に対し、自転車の走行空間の優先度の比重を上げて頂きたい。

事務局

- ・ 73、74ページに自転車走行空間の標準整備パターンについて、具体的な検討の流れをフロー図で記載している。この流れに沿って、地域住民や関係機関などと協議しながら、行政として責任を持って調整し、理想を目指して整備を推進していきたい。ただ、市民の方にはわかりにくいと考えられるので、わかりやすく説明していきたいと考えている。また、都心部では自転車優先道路の整備は現実的に難しいが、この計画を着実に推進し、より走りやすい走行空間を目指していきたい。

古倉会長

- ・ 自転車の空間をできる限り確保するように努力すると明確に記載したほうがよい。標準整備パターンを決定する決め方はフロー図で記載してある。しかし、フローについては一般の方にはわかりにくい。また、自転車の走行空間の優先度についても、よく読めば、配慮していることがわかるが、すぐにはわかりにくい、市民にわかりやすい表現になるようご検討頂きたい。

事務局

- ・ ご指摘を踏まえ、市民の方にもわかりやすくなるよう記載方法を検討していきたい。

柿沼委員

- ・ 60ページの重点事業の施策をみると、自転車の環境が良くなるというのは分かるが、自転車を利用するメリットがわかりにくい。自転車に乗りたくなるという視点が不足している。「自転車モニター事業の実施」一つだけでは弱いのではないか。

古倉会長

- ・ 60ページの重点施策の一覧は、急に出てきたという印象であり、乗りたくなる条件の整備には、自転車のメリットとの関連が必要である。このようなメリットがあるから、このような施策を定めたというようにストーリーが明確になるとよいのではないか。

事務局

- ・ 計画策定後に作成するPR資料などでは、そのつながりが明確に伝わるように配慮したい。

三宅委員

- ・ 成果目標の数字は掲載されていないことが気になるが、数字を出すのが難しいのも理解できる。前回、定点観測をしてはどうかという意見を言ったが、10年後の数値をいきなり出すのではなく達成度の評価として、毎年の経過を見るのが現実的には一番いいのではないか。特に自転車利用者数については、定点観測をして、毎年、数値を計測する必要があると考えられる。

事務局

- ・ 今回の計画はこのような形でまとめたが、指標については、今後、進行管理をする中でもご意見をいただきながら、わかりやすく整理していきたい。自転車利用者数等については、10年後にいきなり数値を示すのではなく、毎年経年変化を捉えていきたいと考えている。

加藤委員

- ・ 本素案では、優先整備路線が設定されているが、郊外部では安全とはいえない道路もある。ハード面の側面からも十分な対策を行ってほしい。また、宮サイクルステーションはどういったものか、説明をして頂きたい。

事務局

- ・ 優先整備路線については予算の制約もあるが、計画に従って整備を目指して進めていきたい。宮サイクルステーションはまちづくり推進機構に業務を委託している。シャワー、トイレの無料提供のほか、今後は、自転車マップなどの情報提供をしていきたい。また、有料であるが、ロードタイプの自転車のレンタル等の実施を予定している。

古倉会長

- ・ 行政でこのような施設を整備するのは全国初ではないか。他都市の民間による施設は月に2万円程度かかるが、宮サイクルステーションは無料でできる。

古池委員

- ・ 前回の委員会での県道も加えて欲しいとの意見に対応していただいている。交通安全については、76ページの1ページのみの記載であり、第9次宇都宮市交通安全計画丸投げしているような印象を受ける。自転車のみならず、歩行者の安全の問題もある。ソフト、安全の側面について、もっと記述を盛り込んで行って欲しい。

事務局

- ・ 基本的には44ページに交通安全教室などの拡充について記載している。安全の側面は大変重要であることから、76ページの重点事業にも位置付けているが、記載方法は再度整理させて頂きたい。

古倉会長

- ・ 交通安全については、拡充する部分が重点となると考えられるので、今回拡充する部分を76ページにも具体的に記載して頂きたい。
- ・ チャレンジ指標は客観的、主観的指標が両方盛り込んであってよく整理されていると考えている。客観指標である自転車分担率の数字は全国最高水準の数値を目指していくという目標となっている。宇都宮市におけるアンケート調査で、自転車を促進すべきか、抑制すべきか、質問を行った結果、市民の大多数から、促進すべきという回答が得られた。市民の基本的な意向は利用促進であるということも記述頂ければと考えている。

(2) 計画名称等について(資料2)

古倉会長

- ・ 計画名称等については、前回の懇談会の後、委員の皆様から計画名称とサブタイトルについて多数のご提案をいただいた。また、本日は、事務局案を含めた計画名称の候補のうち、委員の皆様が今回の計画に相応しいと思うものを既に事務局にお知らせいただいている。事務局からその結果を含めて、資料の説明をお願いしたい。

事務局

- ・ 委員の皆様のご提案と事務局案を合わせた計画名称の候補に対して、委員の皆様のご意見をいただいたところ、計画名称については、「宇都宮市自転車のまち推進計画」の評価が高く、次いで、「うつのみや自転車のまち総合計画」、「自転車の生きるまち“宇都宮推進プラン”」であった。また、サブタイトルについては、「ひとや環境にやさしい自転車が似合うまちうつのみや」の評価が高く、次いで「自転車でつくる人も街も元気なまち宇都宮」「エコサイクルシティ宇都宮」などであり、意見が分かれるような結果であった。

古倉会長

- ・ 計画名称等については、市長の思いもあるのではないかと思います。名称決定については、委員のご提案を踏まえながら事務局に一任したいと考えている。また、計画素案については、今後、本日のご意見を踏まえ、事務局と私で責任をもって調整していきたい。このようなやり方で了承頂けるか。

(異議なし)

古倉会長

- ・ 事務局から今後のスケジュールをお知らせいただきたい。

事務局

- ・ 10月25日から、1か月間パブリックコメントを実施する予定であり、年内には策定、公表したいと考えている。

事務局挨拶

- ・ 委員の方々には貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。この計画は、15年度に策定した計画に「環境」「健康」などの4つの観点を追加して、新たな計画にしようと進めてきた。本日、皆様から貴重なご意見を頂き、本日素案を定めることができた。特に、座長である古倉先生には自転車施策に対するノウハウをご提供頂いたと感謝している。この計画は年内を目処に策定する予定であるが、全国でも「自転車のまちといえば宇都宮」といわれるように、計画策定後も行政として自転車施策に積極的に取り組んで行きたい。今後とも皆様のご協力をお願いしたい。

以上